



12月議会でパネルを使い質問する五十嵐完二議員

BRT構想

連節バスは不要

12月新潟市議会で追求

五十嵐完二議員

日本共産党の五十嵐完二議員は、市民の関心が高く12月議会の最大の焦点となったBRT構想における連節バス導入計画を取り上げ、連節バス導入に根拠がないことを一問一答方式で市長にすどく迫りました。

1 「負の連鎖」に歯止めはかかるのか

五十嵐議員は、連節バス導入の必要性について、市が「負の連鎖に歯止めをかける」「中心部のバスを効率化して郊外路線にまわす」と説明していることについて、「郊外路線はほとんど増えないのに乗り換えが必要になる。乗り換えに伴うバス離れで『負の連鎖』に拍車がかかりかねない」と指摘しました。

市長は、「交通事業者の社長が利用者を増やすとっている」としか答えられませんでした。

2 まちづくりがいつそう困難になる

乗り換えのわずらわしさから、西区方面では青山で、東区や北区住民は万代シティーで用を済ませ、古町には足が遠のくことが考えられる。そうなれば古町地域の衰退がひろがり、まちづくりはいつそう困難になるのではないかと五十嵐議員の指摘に対し、市長は「まちなかにおける回遊性が確保」などとまともな答弁はできませんでした。

3 なぜ急いのですめるのか

五十嵐議員は「市民から歓迎されていない連節バス導入という拙速はやめ、地域生活交通の充実などを含め市民合意のもとすすめていくやり方をすべき」と、2011年3月の新潟市区自治協議会会長会議の報告書の「中心市街地における交通対策に力点がおかれているが、まず現状のバス路線など公共交通システムの整備を第一とし…」とする「区交通」の提言も引用し、市民不在のやり方を指摘しました。

4 連節バスの必要性について、市の説明に「虚偽」がある

市は「新潟駅の朝のピーク時に乗りこぼしが出る」から「連節バス導入が必要」と、説明会や「市報にいがた」で説明してきました。五十嵐議員の質問により、朝のピーク時の30分間の新潟駅前からの輸送力は説明してきた797人でなく1500人もあることが判明し、市は「虚偽」の説明をおこなってきたこととなります。これは「市政に関する情報を共有する」とした「新潟市自治基本条例」にも反するものだとして厳しく指摘しました。

連節バスでなく

区バス や 住民バス など地域生活交通の充実こそ

各区での市民説明会への参加と岐阜市への視察ふまえ提案

五十嵐議員は、11月に市が区ごとに開催した3巡目説明会に8区のうち6つの区での説明会に市民の声を聞くために参加。また、市民参加で総合交通政策を策定し、住民バスを充実させることで岐阜バスの利用者数も増加に転じている岐阜市に視察したことをふまえ、「連節バスよりもまず地域生活交通を優先すべきというのが市民の声だ。岐阜市は、その地域生活交通である住民バスをひろげ岐阜バスの乗り継ぎ拠点やJR駅とつなげることで、減少の一途だった利用者数は2008年以降増加に転じている。連節バスでなく、区バス・住民バスなどの地域生活交通充実こそが市民の願いであり、負の連鎖を断ち切れる道だ」と強く迫りました。



岐阜市の視察では党岐阜市議団長からも話を伺いました